6月園だより

２０２１年度　年主題　　〈共に喜んで　～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児６月主題　「なにかな･きづく」

月のねがい

◎保育者の祈る姿に接する(0)◎小動物や自然に触れて遊ぶ(0)◎周りの人や物に興味をもち、関わろうとする(0)
◎保育者の祈りのことばに心を合わせようとする(1.2)
◎まわりの様子に気づき、興味関心を持つ(1.2)
◎見たこと、感じたことをことばで表そうとし、共感してもらえる喜びを味わう(1.2)

3･4･5歳児６月主題　「やってみたい」

月のねがい

◎天気、草花、生き物などの話を通して、神さまを感じる(3)
◎砂・泥・水に触れることを楽しみ、様々な感触を体験する(3)
◎保育者と友だちと礼拝を守りながら日々を歩む(4.5)
◎興味を持ったことに、「もっと知りたい・もっとやってみたい」と思い、繰り返し楽しむ(4.5)
◎遊びながら、手や身体を使い様々な方法や道具使いを習得していく(4.5)
◎思い通りにいかないことや友だちとのぶつかり合いを通し、やり直したり仲直りをする経験をする(4.5)

今月の聖句　「すべて主を愛するものは主が守られます。」

詩篇145：20

「価値の遠近法」と、呼ばれるものがあります。それは、どんな状況にあっても、次の4つを見分ける眼力のことです。その4つとは、(1)絶対なくしてはならないもの、見失ってはならないもの、(2)あってもいいけどなくてもいいもの、(3)端的になくていいもの、そして(4)絶対あってはならないものの4つを見極める力です。これをきちんと仕分けることの出来る判断力を養う最初の公的場は、こども園だと言うことが出来ます。

新年度が始まり、約二か月が経過しました。子どもたちも新しい園の環境に慣れ始めてきた頃でしょうか。初めて園に入ってきた子どもたちは、父母から離れて、一人で見知らぬ人々の集団の中へ入ってゆく時、不安を抱えていただろうと思います。ちらちら父親母親の方を振り返り、自分の方を見るその顔を何度も確認しながら、恐る恐るやがて仲間となるはずの見知らぬ他者の輪の中に入っていくことが出来るようになります。人は信頼している誰かに見守られているということを意識することによって初めて、独り立ちし、自分の行動をなしうるということがあるのです。

そして、その親であれ、家族であれ、仲間であれ、自然界であれ、その背後にあって、私たちを守り、導いておられる絶対的な存在、神さまがおられるということを受け入れている者は、なおさらのこと、本当の意味で自立した人間として成長し続けることが出来るのです。

協力牧師　池田基宣

～海あそび～

～奉仕作業～

～交通安全教室～

～野菜苗植え～

～歯科健診～

かなわんな

河野　進

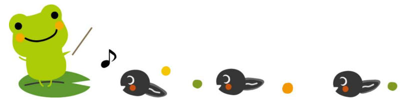
お母さんは
ぼくのしたこと
みんなわかるんや
よいことしたら
うれしそうな顔する
わるいことしたら
かなしそうな目をする
かなわんな

６月の行事予定

３日（木）	給食日
５日（土）	熊毛地区教職員研修会
１７日（木）	弁当日
３０日（水）	歯科検診(13:30～)
２３日（水）	６月生まれ誕生会（10時～）
２６日（土）	夏祭り実行委員会（10時～）

７月の行事予定

１日（木）	海あそび(2.3歳児)
３日（土）	夏祭り・弁当日(2.3号)
７日（水）	七夕事業所訪問
９日（金）	海あそび(4.5歳)･弁当日
１３日（火）	７月生まれ誕生会（10時～）
１７･１８日	お泊まり保育
１９日（月）	１学期終園式



５月を振り返って…

2週間にわたる家庭訪問にフリー参観と、大変お世話になりました。ご自宅での子どもたちの様子を聞かせていただき、そして園での様子を見ていただきました。フリー参観はいかがでしたでしょうか？家での子どもたちとは、また違った表情をしていたのではないでしょうか？職員も保護者の方の参観は緊張しますが、保育を見られる機会も少ないので、とても良い刺激をいただきました。参観や訪問で何かお気づきのことがありましたら、遠慮なくお知らせください。様々のご協力まことにありがとうございました。

さて、私も久々の家庭訪問と参観をさせていただきましたが、我が家の息子たちの訪問や参観をふと思い出しました。先生が来られることにとても興奮し、お話ししている間に先生のお茶をこぼして話が中断したこと。参観では隣の子にちょっかいをだして嫌がられた上に、帰りは後追いされ、癒やされるどころか逆に疲れて帰ったことを思い出しました。それを考えると、めいろうのこどもたちはとてもおりこうさんです。そんな息子も4月から香川の大学へ。驚いたことに、朝と夜はちゃんと自炊しているそうです。母も作ったことのない炊き込みご飯を作ったり、朝はフレンチトーストを食べて学校へ行ったりと、親が想像を遥かに超えるくらい一人暮らしと大学生活を満喫しているようです。そう言えば、小さい頃からお味噌汁やお弁当作りに興味を持ち作っていたことを思い出しました。小さい頃の興味と経験はこんなところでも生かされるんですね。たくさんの経験と小さな興味関心は、右往左往しながらも成長に繋がっていくのだと改めて感じることでした。

気づけばもう6月です。長い梅雨ですが、開けたらいよいよ活動が活発になってくることでしょう。暑さが増して汗をかいて、疲れて帰って来るかと思います。睡眠と栄養、そして心の栄養もたっぷりとって元気に過ごしましょう!!

森山

特別な創造の業

今年は思いもよらず早い梅雨入りで、平年からすると二十日ほど早いようですね。梅雨明けも少々早くなりそうですが、その分暑い夏も長くなるということでしょう。しばらくは、子どもたちと一緒に、雨とお友だちになって楽しみたいと思います。

あるコラムにあったお話。神が〝母親〟を創造された時、その様子を隣でじっと観察していた天使が言いました。『今回はずいぶんと手をかけていますね。』すると神は答えた。『その通りだとも。何しろこれは他の生き物にはないいくつもの微妙な部品を必要としているのだから。〝ひざ小僧の小さなすり傷に始まって、恋に破れて痛んだ心をまでも癒すことのできる優しいキスをする唇〟〝台所の片づけをしながら、子どもの着替えをさせ、夫のゴミ出しの準備をし、飼い犬にエサをやり、そのついでに洗濯物を干すことのできる腕〟やはり腕は五組は必要だな。いやいや、やはり難しいのはこの〝それぞれ違った機能を持つ三組の眼だよ。ドアの向こう側を見透かすことができるために一組、また頭の後ろには子どもが母親に見つからないように悪さをしているのを見抜くためにもう一組、そして最後は誰かがへまをやらかしてしまった時に、「大丈夫、大した失敗じゃないわよ。それでも心から愛してるわ！」と語ることのできる眼差しだ。』『神様、そんなの無茶じゃないですか？』『そんなことを言ってはいけない。私は何としてもこの〝わたし自身に最も似た存在〟を完成させたいのだから。何しろ彼女は病気になっても誰の看病も受けずに回復することができ、冷蔵庫の残り物だけを使った料理で家族を喜ばせることもでき、五歳以下の三人の幼児をいっぺんにお風呂に入れるほどの芸当をやってのけるのだから。』『それはまさしく〝奇跡〟ですね！』『そうだろう。しかしその内面は恐ろしく強靭に造られているのだ。彼女が一体どれほどの逆境に耐え抜くことができるか、お前には想像もできないだろうな。』これは、生後三週間の孫の世話をしている娘を眺めながら思い出したお話です。奇跡のような営みの中で、私たちも育ってきたことを思い出させてくれました。世のお母さま（お父さま）方！日々のお働き、まことにご苦労様です。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

最後になりましたが、土曜日は多くの方に環境整備のご奉仕をいただいてありがとうございました。心地よい環境の中で、心身健やかに育つ子どもたちの笑顔が目に浮かびます。少々うっとうしい日々が続きますが、早寝・早起き・朝ごはんで元気に登園できますようご協力をお願いいたします。

園長

いろいろな友だちがいることに気付き関わっていこうとする

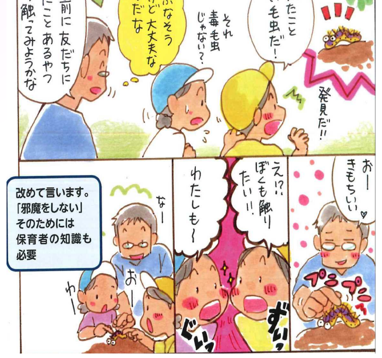
この時期の4才児は友だちと一緒に遊ぶことがぐんと増えてきます。とは言っても子どもによっては緊張してなかなか友だちに関わっていけなかったり、気の合う友だちと関わろうとしなかったりすることもあります。そこでこの時期のねらいを「いろいろな友だちがいることに気付き、関わっていこうとする」としています。

この時期、仲良しグループが固まって、それ以外の友だちを入れようとしないことは、ある程度は自然のことだと思います。安心できる友だちとの関係を守りたいですからね。ですから、それ以外の友だちとも遊びを通して関わる状況を作り、新たな関係が築けるよう支えています。子どもたちは、一緒に何かをする共同体験を通してすぐに仲良く仲良くなってしまうことがよくあります。仲良しグループと一緒にいたいという気持ちも認めつつ、他の友だちとも一緒に過ごす機会を保障することで、様々な友だちに関わっていこうとする態度が徐々に育まれていくのでしょう。

心を動かしながら身近なものと関わり、興味や関心を 広げていく

この時期になると、子どもたちの活動が活発になり、活動範囲も広がり関わる対象も増えていきます。そこでこの時期のねらいを「心を動かしながら身近なものと関わり、興味や関心を広げていく」としています。

子どもたちの自然からの呼びかけに応える感性はすごいもので、実に様々なものに心を動かしていきます。子どもたちの行動の中には一見無謀に見えるものもありますが、子どもたちは実はちゃんと自分の力をわかっていて行っていることがほとんどです。ですから周りの大人は、もし失敗しても大丈夫かどうかを見極めながら、なるべく邪魔をしない態度が必要だと思います。同様のことは、動植物との関わりにもいえます。一緒に毛虫を触ったり、キノコを採ったりすると「毒だからダメ」と禁止することが多いようです。しかし実際にはよく分からないから闇雲に禁止していることが多いようです。周りの大人も正しい知識を持つことで、子どもたちの主体的な活動の邪魔をしなくてもすむようになります。それも大切な専門性といえるでしょう。



松本信吾（広島大学）